

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成29年度採択分）
「日本数学会出版業務のシステム構築および情報発信の統合的プラン」
（課題番号：17HP1002）

学術団体名：一般社団法人 日本数学会

学術刊行物の名称：Journal of the Mathematical Society of Japan, Mathematical Society of Japan-Memoirs, Advanced Studies in Pure Mathematics

事業期間：平成29(2017)年度～令和3(2021)年度

1 取組の概要

・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

日本の数学研究は、国際数学連合IMUの最高位グループに位置付けられ、国際的にも非常に高い評価を得ている。これを支えているのが日本数学会である。特に、本会の出版物は70から100年の歴史を持ち、世界トップレベルの質を誇り、国際的な投稿や引用も多い。しかしながら、出版業務に関しては旧態然の非効率な方法で行なわれ、出版まで長時間かかるなど著者・読者の不利益が生じている。本取り組みの目的は「日本数学会発行出版事業をIT時代に合わせて近代化し、出版業務を迅速化、合理化することによって国際競争力を高め、国際情報発信力を強化すること」である。

・応募時に設定した取組の目標・評価指標

- A) 論文投稿、査読、掲載可否の決定をすべてウェブ上で行えるようなシステムを構築する。
- B) 単行本、講義録の電子化を行い、また、将来のオープンアクセスを見込んだ体制を整備する。
- C) 雑誌や単行本、講義録の編集作業を電子的に行い、TeXを用いた編集体制をシステム化する。
- D) 平成30年国際数学会議、平成32年ヨーロッパ数学会議などで日本数学会のブースを設けて、日本の数学研究の情報を発信するとともに、日本数学会の出版物等の広報を行う。
- E) 台湾数学会、大韓民国数学会と連携を深めるために、役員等の相互交流を推進する。
- F) 日本数学会の英文ホームページを改良し、国際水準にまで高める。

2 目標の達成状況

・現在までの目標の達成状況

- A) Journal of the Mathematical Society of Japan について査読・投稿システムEditFlow®を導入し、これにより論文投稿・査読・掲載可否の決定をすべてウェブ上で行なった。
- B) Advanced Studies in Pure Mathematics について、これまで発行した冊子の電子化を行い、オンライン出版プラットフォームであるProject Euclidを通しての公開を開始した。この公開は、公開猶予期間の5年を経過したものはオープンアクセスとした。
- C) 本取組の対象学術刊行物3誌について、論文著者から提出されたTeXファイル等から公開用のPDFの作成（組版）までを電子的に行った。
- D) 英文広報資料を作成し、平成30年8月の国際数学会議における日本数学会のブースにおいて配布した。ブースは盛況で、英文広報資料も好評であった。
- E) 平成29年度は、台湾数学会に対し日本数学会の出版物についての英文広報資料を用いた広報活動を行った。平成30年度は、理事1名が大韓民国数学会を訪問し相互交流を推進した。
- F) ホームページ改定のための業者選定を行った。現在この業者と改定作業を進めている。本取組期間内の公開に向けて作業は順調に進行している。

・今後の計画

- (1) 本取組の学術刊行物3誌について引き続き電子化を行いProject Euclidを通しての公開を行う。公開猶予期間の5年を経過したものは引き続きオープンアクセスとする。
- (2) Journal of the Mathematical Society of Japan の編集作業でEditFlow®を引き続き運用する。
- (3) 台湾数学会の令和2年度秋季総合分科会（熊本大学）への招聘を予定している。大韓数学会については、令和2年度秋季総合分科会（同上）会期前日にJoint-Meetingの開催を予定している。また、大韓数学会のAnnual Meetingの訪問を検討している。さらに、令和2年に開催されるアジア数学会（ベトナム）へ参加し、相互交流を行う。
- (4) 日本数学会ホームページの改良については、令和元年度内に元となる和文版の改良を完了し、令和2年度内に英文ページを作成することを計画している。